

ブックサークルだより

第13号 発行 平成30年12月



この冬、家族で本を楽しもう ―こんな本はいかが？―

読書週間に取り組みました家族読書のカードの一部が、図書館前に展示してありました。

児童やご家族の感想に「一人で読むより、家族と一緒にの方が楽しいです。」「盲導犬やロボットのことができて、なぞなぞを家族で楽しんだりできてよかった。」「平日子どもと本を読む時間はほとんどなかったが、今回楽しい時間が過ごせた。」とありました。

日々の忙しい生活の中で、家族と一緒に本を開いた時間は、忘れがたい思い出の一つとなることでしょう。これから、冬休みに入ります。お勧めの本をいくつか紹介したいと思います。

<低学年～>

こぐまのどんだんぶんこ

きっちり・しとーるさん

(おのりえん 作・絵)

しとーるさんは、家でも職場の図書館でも何でも時間どおりこなします。時々きっちりしすぎて、周りの人からこわがられることも。

そんなある雪の日、しとーるさんは汚いノミだらけの子ねこに会い、そのお世話に振り回され、きっちりできなくなっちゃった！
さあ、どうする、しとーるさん？

<中学年～>

ホオズキくんのオバケ事件簿1

オバケが見える転校生！

(富安 陽子 作)

4年生の真先のクラスに無愛想な転校生がやってきます。その名も、鬼灯京四郎。

親友が引っ越して、心にぽっかり穴のあいた真先に、黒いオバケのカゲビトがとりついているのを見抜いた京四郎。2人で協力してカゲビトを追い払うことに。

さて、うまくいくかな？

<高学年～>

ヘビとトカゲ きょうからともだち

(ジョイ・カウリー 作)

ヘビとトカゲ…まったく異なる生き物が、ある春の日にはばったり出会い、けんかをしたことがきっかけで、友だちになりました。

同じ穴に住み、ピクニックでお弁当を食べたり、今まで生きてきた中で一番後悔していることをききあったりします。

お互いの食べ物や性格の違いに、びっくり！ドッキリ！しながら。

このシュールな話、高学年ならわかるかな。

<中高生～大人の方へ>

かんがえる子ども

(安野 光雅 著)

「ふしぎなえ」「さかさま」「もりのえほん」等、自分で考えるおもしろさを驚きに満ちた絵本で伝えてきた画家が、「子ども」「学ぶ」「自分で考える」ことについて語ったエッセイ。

著者は島根県津和野町出身。山口師範学校研究科修了。徳山市（現在の周南市）で小学校の代用教員をしていた山口ゆかりの作家です。

大人はもちろん中高生にもお勧め。

「自分で答えをみつけるのがたのしいのです。」

(本の帯より抜粋)

ブックサークル(学校図書館ボランティア) 2学期の活動紹介

1 図書室のディスプレイの作成

<9月~11月中旬> テーマ:月 ~ 月夜に読書 ~



<11月下旬~12月> テーマ:クリスマス ~ クリスマスには本を~



植田先生のおはなしの会

10月17・19日に、図書室で植田眞理子先生のおはなし会がありました。

植田先生は、語り(お話を何も見ずに語ることを中心としたおはなし会を、約10年以上大嶺小学校でされています。おはなし会は、学年ごとに45分間の授業の中で行われます。

今回は、1年生のおはなし会に参加してみました。1年生は、先生のお話をきくのは初めてでしたが、すぐにおはなしの世界に引き込まれ、先生の身振り手振りも真似ながら、とても楽しそうに聞いていました。保護者の方から「今日帰ったら、子どもが『すごいおもしろいお話をきいたんよ。』と話してくれました。」というお話も聞きました。

植田先生がお話された内容は、配られたプリントを見ていただくと幸いです。紹介された本は、図書室に展示中で、貸し出しもできます。親子で読んで、楽しんでいただければと思います。

